

# 平成23年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

本部

## 1 経営実施状況

### (1) 諸会議

#### ア 理事会の開催状況 (計 7回)

開催年月日	議 題
平成23年5月20日 (金)午後3時30分	第1号議案 平成22年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 評議員の選任について 第3号議案 施設長の異動・任命について 第4号議案 光和寮機器整備の入札業者選定について 第5号議案 マザー園設備整備にかかる積立金取崩しについて 第6号議案 緑風施設整備にかかる借入金担保設定について 第7号議案 港ワーク借入金担保の差替えについて
平成23年8月10日 (金)午後2時30分	第1号議案 戸田川・緑風の建物基本財産組入について 第2号議案 定款の変更について
平成23年8月20日 (土)午後2時30分	第1号議案 障害者就業・生活支援センターの事業開始について 第2号議案 定款の変更について
平成23年8月25日 (木)午後2時30分	第1号議案 緑風大規模修繕工事 入札業者承認について
平成23年9月30日 (金)午後3時30分	第1号議案 緑風大規模修繕工事 入札結果報告および契約承認について
平成23年11月29日 (火)午後3時30分	第1号議案 平成23年度 上半期事業報告・中間決算(案)について 第2号議案 平成23年度 第一次補正予算(案)について 第3号議案 名古屋ライトハウス3ヶ年計画について 第4号議案 定款の変更について 第5号議案 港ワーク借入金担保の差替えについて 第6号議案 諸規程の改定について

平成 24 年 3 月 21 日 (水) 午後 3 時 30 分	第 1 号議案	平成 23 年度 第二次補正予算(案)について
	第 2 号議案	平成 24 年度 事業計画・収支予算(案)について
	第 3 号議案	諸規程の改定について

イ 評議員会の開催状況 (計 5 回)

開催年月日	議 題
平成 23 年 5 月 20 日 (金) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 22 年度 事業報告・決算(案)について
平成 23 年 8 月 10 日 (金) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 戸田川・緑風の建物基本財産組入について 第 2 号議案 定款の変更について
平成 23 年 8 月 20 日 (土) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 障害者就業・生活支援センターの事業開始について 第 2 号議案 定款の変更について
平成 23 年 11 月 29 日 (火) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 23 年度 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 平成 23 年度 第 1 次補正予算(案)について 第 3 号議案 名古屋ライトハウス 3 ヶ年計画について 第 4 号議案 定款の変更について 第 5 号議案 諸規程の改定について 第 6 号議案 港ワーク借入金担保の差替えについて
平成 24 年 3 月 21 日 (水) 午後 3 時 30 分	第 1 号議案 平成 23 年度 第二次補正予算(案)について 第 2 号議案 平成 24 年度 事業計画・収支予算(案)について 第 3 号議案 諸規程の改定について

ウ 部長会(施設長会)の開催状況 (計 12 回)

開催年月日	議 題
平成 23 年 4 月 20 日(水)	1. 処遇改善事業について 2. 当年度計画について 3. QMS 活動(計画作成進捗)について
平成 23 年 5 月 6 日(金)	1. 事務局体制について 2. 施設長人事体制について
平成 23 年 5 月 18 日(水)	1. 各施設事業報告について 2. 各施設行動計画について
平成 23 年 6 月 22 日(水)	1. 各施設状況報告について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 夏季賞与について</li> <li>3. 人事について</li> </ul>
平成 23 年 8 月 25 日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 障害福祉施策の動向について</li> <li>2. 各施設状況報告について</li> <li>3. 3ヶ年計画の策定について</li> <li>4. 緑風運営方針について</li> <li>5. 本部繰入金について</li> <li>6. 海部障害者就業・生活支援センターについて</li> </ul>
平成 23 年 9 月 28 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設状況報告について</li> <li>2. 3ヶ年計画進捗について</li> <li>3. 中間決算等スケジュールについて</li> </ul>
平成 23 年 10 月 18 日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設半期報告について</li> <li>2. 3ヶ年計画進捗について</li> <li>3. 採用活動について</li> </ul>
平成 23 年 11 月 16 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設半期事業報告・中間決算について</li> <li>2. 第一次補正予算について</li> <li>3. 3ヶ年計画について</li> </ul>
平成 23 年 12 月 21 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設状況報告について</li> <li>2. 法人監査の報告について</li> <li>3. 統括会議の報告について</li> <li>4. 人事について</li> </ul>
平成 24 年 1 月 18 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設状況報告について</li> <li>2. 年度末スケジュール確認について</li> <li>3. 統括会議の報告について</li> <li>4. 人事について</li> </ul>
平成 24 年 2 月 15 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第二次補正予算について</li> <li>2. 次年度事業計画・行動計画について (マネジメントレビュー)</li> <li>3. 報酬改定による影響について</li> <li>4. 統括会議の報告について</li> </ul>
平成 24 年 3 月 19 日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設状況報告について</li> <li>2. 人事委員会の報告について</li> <li>3. 評議員会・理事会について</li> </ul>

( 2 ) 登記事項

平成 22 年度資産変更登記

平成 23 年 5 月 24 日登記

法人の目的等変更登記 ( 障害者就業・生活支援センター開設による )

平成 23 年 8 月 29 日登記

戸田川グリーンヴィレッジ建物 所有権保存登記

平成 23 年 5 月 18 日登記

同	福祉医療機構	抵当権設定登記	平成 23 年 6 月 28 日登記
同	名古屋銀行	抵当権設定登記	平成 23 年 7 月 27 日登記
緑風	建物	表示登記	平成 23 年 7 月 13 日登記
同	建物	所有権保存登記	平成 23 年 8 月 19 日登記
同	福祉医療機構	抵当権設定登記	平成 23 年 12 月 13 日登記
明和寮	福祉医療機構	抵当権抹消登記	平成 23 年 10 月 12 日登記
港ワークキャンパス	三菱東京 UFJ 銀行	抵当権変更登記	平成 24 年 3 月 8 日登記

( 3 ) その他事業

ア 愛盲報恩会事業

- ・助成事業 24 団体 1,260,000 円
- ・第 6 回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式  
平成 24 年 3 月 25 日

イ 国兼基金事業

物故者慰霊祭 平成 23 年 10 月 15 日

ウ 海部障害者就業・生活支援センター開設（津島市天王通）

平成 23 年 10 月 1 日

エ 同 開設により法人所管が名古屋市から愛知県となる

オ 緑風 大規模修繕工事の実施および完了

カ 東日本大震災の支援のため全社協ならびに日本障害フォーラムを通じ職員 16 名を被災地にそれぞれ 7～10 日間派遣

キ 名古屋ライトハウス 3 ヶ年事業計画（平成 24 年～26 年）を策定

ク 職員研修

- ・平成 23 年度 職員研修会（名古屋国際会議場）  
平成 24 年 3 月 3 日

( 4 ) 会計手続について

- ・戸田川グリーンヴィレッジ（準備）特別会計を、事業開始にあたり社会福祉事業会計に編入した。
- ・名古屋市緑風荘事業譲渡にあたり、緑風経理区分を就労支援事業会計に編入した。
- ・海部障害者就業・生活支援センター事業委託にあたり、公益事業会計に編入した。

## 2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

### （1）助成に関する特記事項

- ・日本財団 5,000,000 円（光和寮 印刷機）
- ・日本財団 620,000 円（明和寮 車両）
- ・日本財団 5,000,000 円（情文センター 点字製版機）
- ・ヤマト福祉財団 1,000,000 円（明和寮 パワーリフター）

### （2）寄付に関する特記事項

- ・坂文種報徳会 様 500,000 円（本部 法人運営）
- ・中島留字子 様 100,000 円（明和寮）
- ・愛知県自動車会議所 様 2,402,070 円（港ワーク 車両寄贈）
- ・牧野 裕 様 120,000 円（戸田川 ピアノ）
- ・河村東一 様 500,000 円（情文）
- ・情文ともの会 様 300,000 円（情文）
- ・畑 培夫 様 100,000 円（北部施設）
- ・中島真太郎 様 100,000 円（国兼基金）

## 光和寮

就労継続支援事業 B 型	『光和寮』
就労移行支援事業	『光和寮』
施設入所支援	『光和寮』 - 障害者支援施設
生活介護事業	『光和寮』
福祉ホーム	『かわな』・『やすだ』
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぼーと』

当年度においては、各事業のサービス向上と実績向上を図ってきた。

特にガイドネットあいさぼーとにおける稼働時間のアップを推し進め、また、生活介護及びクリエイト川名の稼働率の向上に努めてきた。さらに就労移行支援事業における就職率と職場定着率の向上を進めてきた。

光和寮全体としてのサービス向上に努めることで、地域における必要な資源として確立されることを目標としてきた。制度が刻一刻と変化する中で、柔軟に対応し地域や養護学校との交流を深め、広く障害者福祉に関する情報発信にも努めてきた。

引き続きご利用いただく利用者及び地域にお住まいの障害者にとってきめ細かいサービスを提供し、さらに障害者福祉業界における基幹施設となれるよう努めていく。

### 1 就労継続支援事業 B 型 『光和寮』

当年度は新たな活動を展開する形で進められた。

部品加工科では、自主製品の開発・販売について、いくつかの製品を新たに開発することができた。販売についても金山駅での即売会に出店するなど、具体的な形にすることができた。また、新規取引先及び新規作業のための営業強化については、利用者支援に力を入れるため、現状での取引先での仕事確保に力を入れ、新たな作業確保に繋げることができた。

印刷科については、年度初めより印刷・録音の営業を一元化させ問題なく機能した。また、それにより録音速記から印刷へ、また逆のパターンで印刷の顧客に対し積極的に録音速記の売り込みをかけることにより、主に行政関係で成果が出始めた。設備面では、両面印刷機を整備し作業能力を向上させ外注費の圧縮を行ったが、売上減、売上予算未達となり、課題の残る一年であった。

治療部では、当年度は他の治療院に比べ格安な当治療院の特長を営業活動や宣伝活動を積極的に行うことで顧客確保を行った。(秋口に新聞折込チラシを2万部出した。)また、3月には300円引きの案内状を900通作り、約1割のお客様が案内状を持って来られ活気づいた。また安さを強調した看板を出すなどした結果、窓口に直接来られる新規の顧客も出てきた。

各科、新しい活動を行い、それなりに結果を出すことができた。今後、新たな活動

を定着させながら、事業活動や利用者確保等、積極的に取り組んでいく。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者（）内は通所利用者			工賃（年間総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
鍼灸治療科	6(5)	3(1)	9(6)	226,197	113,037	169,326
印刷科	9(8)	4(2)	13(10)	113,754	13,508	55,590
部品加工科	42(30)	14(9)	56(39)	81,074	4,894	19,633
計	57(43)	21(12)	78(55)	-	-	42,905

イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	54	4	3	55	80
女	22	1	0	23	
計	76	5	3	78	

ウ 障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
35	33	1	0	7	2	78

エ 年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	12	12	15	30	8	78	45.6 歳

オ 月別稼働率（％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
88.4	86.5	88.4	85.8	88.8	81.3	86.2	87.0	87.4	90.3	88.1	87.9	87.2

## 2 就労移行支援事業『光和寮』

当年度は2名のA型事業所を含めた14名の就労者を輩出し、前年度の9名（A型1名）を大きく上回った。就労者の平均訓練期間は11カ月である。現在も13名が継続就労しており、それ以外にも1名がトライアル雇用中である。また、前年度に就労した9名も全員就労継続中であることから、他事業所と比べても定着率の高さは評価できる。しかし、就労者を年度前半に多数輩出した事から利用者減となり、4月時点では登録者24名、1日当たりの平均利用者17名であったが、年間の1日の平均利用者は12.3名にとどまった。

各関係機関への広報活動及び養護学校・生活支援センターからの見学・実習を積極的に受け入れた結果、16名の新規利用契約に繋がったが、年度途中での利用者確保は今後も大きな課題になるため、各関係機関と連携を強めていくことと新たな獲得策

を検討していく。その他にも障害者の就労全般に関わる公益性のある活動を行ってきたことは数字以上の成果を上げていると感じられる。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	14	10	13	11	18
女	7	6	5	8	
計	21	16	18	19	

#### イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	名古屋市雇用支援センター	死亡	合計
12	2	2	1	1	18

#### ウ 障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	1	0	0	16	2	19

#### エ 年齢構成（平成24年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
8	7	2	2	0	0	19	23.8歳

#### オ 月別稼働率（％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
94	80	68	65	56	60	64	57	57	62	74	81	68

### 3 施設入所支援『光和寮』

#### （1）生活支援

当年度は福祉ホーム事業に移行する計画を立て準備を進めていたが、7月に厚生労働省から施設入所支援事業と就労継続支援事業の併用を可とする旨の通知があり、名古屋市障害者支援課と協議の上、光和寮は施設入所支援事業を継続していくことになった。

利用者と家族に対して9月に説明会を行い、福祉ホーム移行の中止に至るまでの経緯を説明した。環境整備面では、居室内の冷蔵庫8台を新規買い替えた。

#### （2）給食及び栄養指導について

当年度も前年度同様、スペシャルランチデーを設け、豪華な食材を使用して、松茸ごはん、ステーキ、ジャンボエビフライ、うな丼、海鮮丼を提供した。特にデイサービスの利用者から好評を得ることができ、食事を楽しんでもらえた。

また、昨年6月から寮の施設入所者22名に対して、栄養マネジメントを実施。栄養計画をたて指導を行い、健康の維持・向上を目的として取り組んだ。

夏の熱中症対策も、各部署にスポーツドリンクを置き、いつでも飲めるよう



な環境を整えた。

(3) 防災と安全確保について

名古屋市健康福祉局指導による総合訓練及び、昭和消防署指導による設備の詳細な説明と装置の試験を行い、R-119の使用においても試験を行った。

震災等に備えて、備蓄食料も名古屋市の指導に基づき大幅に増やし、通所者用に150名分の1日分の水と食料を備蓄し、入所者用に60名分の3日分の水と食料を備蓄した。

(4) 地域生活推進に向けて

利用者のニーズに合わせた生活支援を行い地域移行に必要となる情報提供を行った。福祉ホーム「やすだ」で体験利用をして頂き、利用者の自信に繋がる支援を行った。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	12	0	0	12	32
女	9	1	0	10	
計	21	1	0	22	

イ 障害別状況(平成24年3月31日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
13	8	1	0	0	0	22

ウ 年齢構成(平成24年3月31日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	3	2	5	11	1	22	47.0歳

エ 障害程度区分(平成24年3月31日現在)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
1	5	12	3	1	0	22

オ ボランティア活動状況

活動内容	述べ参加人数
夏まつり	60名
地域交流フェスティバル	51名
メイクサロン	5名
クリスマス会	10名
新年鍋パーティー	4名

## 4 生活介護事業『光和寮』

当年度の取り組みとして、重度の利用者が増えたため看護体制及び介護体制の強化を行ってきた。また利用者が増える事を想定し、活動部屋の拡張を行った。

新規利用者の獲得に向けては、新しいパンフレットを作成し、各支援センターや各

養護学校へ訪問し、積極的に広報を行った。また各養護学校・盲学校からも実習の依頼を受け、今後に繋げる形となった。

広報や実習により、前年度は 64.7%だった利用率が、当年度は 70.0%まで上昇した。その一方で、利用者の高齢化問題があり、介護保険施設に入所され、契約解除に至ったケースもあった。

ア 障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
14	14	2	2	10	2	31(13)

( ) 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（平成 24 年 3 月 31 日現在）

2	3	4	5	6	合計
5	8	5	4	9	31

ウ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	20	278	13.9	69.5%
	5	19	252	13.2	66.0%
	6	22	308	14.0	70.0%
	7	19	242	12.7	63.5%
	8	19	256	13.4	67.0%
	9	18	245	13.6	68.0%
	10	20	303	15.1	75.5%
	11	20	299	14.9	74.5%
	12	20	291	14.5	72.5%
	1	16	230	14.3	71.5%
	2	21	309	14.7	73.5%
	3	21	287	13.6	68.0%
		計	235	3300	14.0

エ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	126 名
音楽療法	46 名
音楽ボランティア	18 名
マッサージ	21 名
音楽講師	5 名
夏祭り	10 名
外出ボランティア	1 名

## 5 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

### (1) かわな

当年度の退所者は市営住宅へ1名、地元へ帰郷した1名の計2名に留まった。新規入所は5名に昇ったが、長期居住者の地域移行が進まなかった。長期居住者の地域移行は、収入面から考えると民間住宅は難しく、市営住宅を希望する人が多いが残念ながら抽選に外れてしまった。

設備面では老朽化しているエアコンを随時取り替えた。空調の利きの良い状態になり、電気消費量も少なくなって好評であり、引き続き随時交換をして行く。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	8	3	1	10	15
女	3	2	1	4	
計	11	5	2	14	

### (2) やすだ

福祉ホームに移行して3年が経ち、利用者もホームでの生活環境に慣れてきた。ヘルパーを利用して自分なりの生活リズムができてきた。

当初計画だった入所からホームへの移行に向けて、当年度は3名の利用者が体験利用を行った。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	7	0	0	7	11
女	2	0	0	2	
計	9	0	0	9	

## 6 地域活動支援事業『デイサービスセンタークリエイト川名』

当年度は、新規利用者の確保と活動の幅を広げ利用者の満足度を上げていくことが課題となったが、結果的には、新規利用者の大幅な増加がみられ、活動についても、社協より講師やボランティアの紹介を受け、新たな活動を増やすことができた。

新規利用者の増加につながった要因として、生活支援員による、各区の障害者地域生活支援センターをはじめ、区役所や総合リハビリテーションセンターへの積極的なPR活動がクリエイト川名の存在を視覚障がいの方に広く伝わっていったことが大きい。

さらに、既存利用者より様々な会を通じて知人を勧誘していただいたことで登録数が伸びていった。

利用曜日についても、登録曜日を増やす既存利用者もみえ、1日あたりの平均利用人数が増えていった。

活動面においても、新たに革細工や歌レッスン、体操など講師の方を招いての活動も取り入れており、創作活動や体を動かしたいという多くの利用者からのニーズに応えることができ、好評を得た。

今後は、利用率 70%を維持することを目標に、さらなる利用者確保とともに、新たな活動を増やしていく。活動を通して利用者が主体となって行動していくことができるようにサポートしていくことを基本理念としサービスの提供を行う。

#### ア 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	22	240	10.9	57.3%
	5	19	200	10.5	55.2%
	6	23	253	11.0	57.8%
	7	20	196	9.8	51.5%
	8	20	214	10.7	56.3%
	9	19	233	12.2	64.2%
	10	21	248	11.8	62.1%
	11	20	253	12.6	66.3%
	12	20	278	13.9	73.1%
	1	17	244	14.3	75.2%
	2	21	280	13.3	70.0%
	3	20	272	13.6	71.5%
		計	242	2911	12.0

#### イ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	107名
外出ボランティア	8名
陶芸	204名
音楽講師	6名
体操講師	1名

### 7 指定障害者居宅介護・移動支援事業『ガイドネットあいさぼーと』

平成 23 年 10 月より同行援護事業の制度開始に伴い、あいさぼーとでも同行援護サービスの支援を開始した。

当年度は、新規ヘルパー3名を確保することができた。定期的活動が中心だが全体的な活動時間数としてはまだ少ない。今後、活動時間の増加に結びつくよう努力していく。主に活動に入っていた数名のヘルパーが体調不良やご家族の都合、ケガ等で活動に入ることができない日が続いた。また、急な依頼・1時間程度の短時間活動依頼

の場合、サービス提供責任者が活動に入らなければならないことが多く、ヘルパーだけの活動調整が難しくなっている。ヘルパーの確保に努め、土日利用の要望に応えられる体制を整えていく。

## 明和寮

就労継続支援事業B型	『明和寮』ビーサポート
就労移行支援事業	『明和寮』港ジョブトレーニングセンター
施設入所支援	『明和寮』 - 障害者支援施設
生活介護事業	『明和寮』ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
児童デイサービス	『わくわくキッズ』
相談支援事業	『港区障害者地域生活支援センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

当年度、「明和寮」拠点においては、10月の「海部障害者就業・生活支援センター」の立ち上げ、当年度末で福祉ホームへ移行する「施設入所支援」の対応、平成24年4月より「児童デイサービス」から「放課後等デイサービス」へ移行するための準備、同じく「指定相談支援事業」の立ち上げ準備等、事業編成に追われ気味であった。

このような状況の中、当初予算に対して「施設入所支援」・「児童デイサービス」は未達成であったものの、拠点全体としてはほぼ達成できた。

また、開設30年以上経過した明和寮の建物・設備の老朽化に対して、食堂の改装・井水から市水への変更工事・浴室の壁面修繕・福祉ホームの居室の改装（2室）等々を実施した。

### 1 就労継続支援事業B型 『明和寮 ビーサポート』

当年度は、震災による製造業の停滞や名古屋市の公費削減の影響もあり、早々に予算の修正を強いられる厳しい事業活動の中、粘り強く作業確保に努め一定の成果を出すことができた。

印刷事業では、案件ごとの印刷部数が削減されていることや、競争見積もりによる取りこぼしなど厳しい状況であったが、印刷に付帯する封入発送作業の取り込みなどで新たな取り組みを進め、売上確保に努めた。組立加工事業は、主要取引先からのアイテム終了が影響し売上減少となったが、後半には徐々に作業量の確保、新規作業を獲得することができた。包装加工事業は、アイテム数、受注数も少しずつ増えており、

年間を通して機械の稼働率 100%を超える状況であった。自動車部品事業は、震災やタイの洪水の影響で、一部土日出勤体制や在庫調整などの対応に追われたが、自動車部品以外の製品の受注により売上を維持することができた。

昨年度から取り組んできた自動販売機設置推進「きらっと one プロジェクト」が設置台数 100 台の目標を達成し、「社会貢献事業」として利用者 2 名、協力企業 65 社と 117 台の自販機でスタートすることができた。今後はこの自販機手数料収入を有効に活用するとともに地域や企業と施設を繋げる役割を担っていきたい。

利用者の面では高齢化や重度化などが進み利用率の低下が進んでいる。利用者確保を進める中で発達障害や知的障害の利用者の受入れが進んでいる。さまざまな障害特性に対応していくため、環境面では現場内に「リセットルーム」の併設、職員体制では就労事業と福祉的支援の両面を充実させられるような体制作りするなど、まだまだ手探りの支援といった状況ではあるが、売上や作業量を確保しながらピーサポート全体で利用者の対応に努めていきたい。

#### ア 賃金支払状況

事業	在籍者 ( )内は通所利用者			工賃(年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
印刷事業	7(7)	2(2)	9(9)	117,744	25,130	56,221
組立事業	22(16)	5(5)	27(21)	81,579	19,618	40,396
自動車部品事業	40(36)	11(8)	51(44)	66,584	18,275	40,822
包装加工事業	12(11)	1(1)	13(12)	119,418	48,613	61,253
社会貢献事業	1(1)	1(1)	2(2)	64,991	20,010	42,501
計	82(71)	20(17)	102(88)	—	—	44,845

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	86	7	11	82	100
女	20	0	0	20	
合計	106	7	11	102	

#### ウ 障害別状況 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
17	66	1	1	21	13	102(17)

( )内は重複障害再掲

#### エ 年齢構成 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	5	14	26	31	28	102	50.9 歳

## オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
100	4	22	1936	88.0	88.0%
	5	21	1825	86.9	86.9%
	6	22	1954	88.8	88.8%
	7	22	1890	85.9	85.9%
	8	21	1801	85.8	85.8%
	9	21	1728	82.3	82.3%
	10	21	1784	85.0	85.0%
	11	21	1843	87.8	87.8%
	12	21	1849	88.1	88.1%
	1	20	1677	83.8	83.8%
	2	21	1832	87.2	87.2%
	3	22	1901	86.4	86.4%
		計	255	22020	86.7

## カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	95	ライトハウス福祉まつり、納涼祭 文化祭、ボランティア協力食事会
頭髮カット	4	
通院介助	3	(施設入所支援利用者を対象)
クラブ活動支援	127	詩吟、卓球、将棋、陶芸、切り絵、手芸、 スケッチ

## 2 就労移行支援事業『明和寮 港ジョブトレーニングセンター』

当事業開始時より課題となっている利用者の安定確保は、市内に同事業所が急激に増えたことにより、一段と厳しい状況となっている。その中で年間利用率 95%超という結果が出せたのは、様々な関係機関との信頼関係や今までの実績からといえる。計画にも掲げた PR 用のツール(チラシ・パンフレット)を作成しての広報活動も下半期から進めている。特別支援学校への勧誘活動も合わせて行っている。

いくつか行った業務改善や支援プログラムの見直しでは、企業と協働した施設外での清掃訓練や、「ジョブカフェ」という接客実践プログラムをスタートし、就職率・定着率へのアップにつなげた。また、このジョブカフェは他事業利用者や職員との交流の場にもなっている。

就職実績は、企業就労 10 名、A 型事業所 4 名と今までにない良い結果となった。ライバル事業が増えた厳しい状況下の中、利用率を確保しながら就職実績を上げるの

は安易ではないが、さらなる専門性の強化を図り、多機能型事業所の強みと就職実績を大きな武器として、魅力ある事業づくりを進めていく。

#### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	14	18	14	18	15
女	3	3	4	2	
計	17	21	18	20	

#### イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	利用期間満了	利用中止	合計
10	4	2	1	1	18

#### ウ 障害別状況 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
1	3	2	0	7	7	20(1)

( ) 内は重複障害再掲

#### エ 年齢構成 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
3	4	6	5	2	0	20	33.3 歳

#### オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
15	4	20	263	13.15	87.7%
	5	21	320	15.24	101.6%
	6	22	355	16.14	107.6%
	7	22	426	19.36	129.1%
	8	20	385	19.25	128.3%
	9	21	342	16.29	108.6%
	10	20	266	13.30	88.7%
	11	21	235	11.19	74.6%
	12	20	201	10.05	67.0%
	1	19	192	10.11	67.4%
	2	21	269	12.81	85.4%
	3	22	298	13.55	90.3%
	計		249	3552	14.27

### 3 生活介護事業『明和寮 ぷちとまと』

前年度に引き続き、1日平均10名を目標に活動をしてきたが、3月末時点で1日平



均 9.19 名であった。新規利用者 5 名、契約解除者 0 名で、実質登録人数が 5 名増加し、23 名となった。港養護学校から 1 名、港支援センター 6 名、中川支援センター 3 名、熱田支援センターから 1 名、その他 3 名、それぞれ紹介や問い合わせがあったが、問い合わせ時点でのニーズがほとんど送迎と入浴ということもあり、契約に繋がったのは 5 名のみであった。

計画していた利用者実費負担額の見直しを行った。また、利用者確保のため、養護学校からの実習生受け入れ学年や障害範囲の拡大を行ったが、実習依頼は 1 件もなかった。4、5 月にパンフレットを作成し、各関連機関に広報訪問したが、その後は時間が取れず訪問できていない。

日中のレクリエーションの充実を目指し、外出先（野鳥公園や防災センターなど）の開拓をし実行してきた。昨年までは、家族を伴った外出行事が年に 1 回だけだったが、今年度は 2 回実施できた。また、今までは新年の昼食会を明和寮内で行っていたが、外部のレストランで開催できた。

引き続き利用者確保に向けて、養護学校からの『実習生受け入れの拡大』や『受け入れ障害範囲を拡大』をしたということが分かるよう広報活動を通して PR していく。

ア 障害別状況 （平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
2	17	0	0	10	3	23(9)

( ) 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分 （平成 24 年 3 月 31 日現在）

障害程度区分	6	5	4	3	2	合計
人数	11	3	5	4	0	23

ウ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1 日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	20	146	7.30	36.5%
	5	20	141	7.05	35.2%
	6	22	171	7.77	38.8%
	7	19	166	8.74	43.7%
	8	20	177	8.85	44.2%
	9	19	164	8.63	43.1%
	10	20	157	7.85	39.2%
	11	20	157	7.85	39.2%
	12	18	148	8.22	41.1%
	1	18	165	9.17	45.8%
	2	21	185	8.81	44.0%
	3	21	193	9.19	45.9%
	計		238	1970	8.27

#### 4 施設入所支援『明和寮』

平成 24 年 4 月に施設入所支援の 12 居室全てを福祉ホーム化することによって、全ての居室が福祉ホーム（定員 40 名）となり、それに伴い 3 月 31 日をもって施設入所支援の事業が終了する。当年度はそのための準備の期間となった。11 月・12 月に希望面談、2 月・3 月に居室の移動、役所手続きなどを行った。全ての入居者が 2 人部屋から個室になったが、利用者の居室が足りないという状況は避けることができた。

1 年間の退所された方の理由は、福祉ホーム移行 15 名、地域移行 1 名、他施設移行 3 名であった。

##### ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	16	0	16	0	30
女	3	0	3	0	
合計	19	0	19	0	

##### イ 障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日福祉ホーム移行者）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
4	10	0	0	3	1	14(4)

（ ）内は重複障害再掲

##### ウ 年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日福祉ホーム移行者）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	1	3	6	4	14	53.0 歳

##### エ 障害程度区分（平成 24 年 3 月 31 日福祉ホーム移行者）

障害程度区分	6	5	4	3	2	1	合計
人数	0	1	2	3	7	1	14 名

#### 5 福祉ホーム『あかり』『黎明荘』

「あかり」が平成 24 年 4 月に定員を 40 名に増やし、明和寮の施設入所支援であった居室の全てが福祉ホームとなる。入居者の高齢化・重度化が進んでおり、必要に応じて進路等の支援を行ってきた。今後も配慮しなくてはならない。

黎明荘を含めヘルパーを活用して生活している方が多く、事業所探しやサービス調整の支援を積極的に行った。

設備面では、施設設備の老朽化が進んでおり（特に「あかり」）、計画的に改修を進めていく必要がある。当年度は、施設全体に関わる部分だが、浴室、トイレ等に使っていた井戸水を廃止し、全てを水道水に切り替える工事を実施した。また、今後居室内改装工事を検討しており、そのモデル的な意味と改修の必要性の両面から、居室 2 室の改修工事を行った。

ア 入退所状況（あかり）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	13	4	18	31
女	6	1	0	7	
合計	15	14	4	25	

イ 入退所状況（黎明荘）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	3	1	0	4	10
女	2	0	0	2	
合計	5	1	0	6	

## 6 指定障害者居宅介護・移動支援事業『みなとガイドネット』

利用時間数の多かった利用者が7月に施設入所されたため、重度訪問介護の活動時間数が8月から少なくなった。しかし、イベントなどがある月は依頼も多くなり、活動実績も多くなってきている。また、平成24年4月から明和寮が福祉ホームに移行するため、明和寮の利用者の居宅介護の時間数が増えつつある。

10月から視覚障がいの方が徐々に同行援護のサービスに移行した。移動支援に比べ単位数が高いため、収入が予算より増加した。

ア 活動実績時間数

	平成22年度	平成23年度
重度訪問介護（月平均）	457.0時間	437.5時間
移動支援（月平均）	475.6時間	457.0時間
居宅介護（月平均）	109.0時間	140.0時間
同行援護（月平均）		308.0時間

（1）ヘルパー確保と資質向上を図る

当年度も3カ月に1回、ヘルパー研修を実施した。新しいサービスとして同行援護が始まり、サービスを学び理解してもらう内容などを行った。

（2）コーディネートミスをなくす

利用者・ヘルパーへの連絡ミス、コーディネートミス等をなくしていこうと職員一同工夫し取り組んだ。それでもミスがある場合は、職員会議で原因分析と対策検討を実施した。

（3）今後の課題

- ・常時ヘルパーを募集すると共に、ヘルパーの資質向上に努めるよう指導する。
- ・明和寮の福祉ホーム化に伴い、福祉ホームの方を多く受け入れていくため、明和寮職員との連携が更に必要になってきている。

## 7 地域活動支援事業『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

地域活動支援事業として障がい者に創作的活動・社会適応訓練・レクリエーション等の提供を行う。その受け入れ体制として利用者ニーズを主とした講座の立案やボランティア等の外部との連携を強化しニーズに沿った柔軟な事業展開を目指す事を目標に事業を実施。利用者のニーズを引出すこととして定例会議にて満足度調査・利用者の気付きノートを活用し日常活動に反映させた。

新規契約者数 12 名。年度末現在では 102 名(男性 58 名、女性 44 名)の利用者登録がされている。定員 19 名に対し 17.0 名の一日平均利用人数となった。

収支では、全体で予算の 105.2%の達成となった。

### ア 障害別状況(年間)

性別	視覚障害	知的障害	身体障害	精神障害	備 考
男性	2 名	13 名	38 名	5 名	身体 + 知的(6 名)、身体 + 精神(3 名)、身体 + 知的 + 精神(1 名) の重複者あり
女性	8 名	12 名	20 名	4 名	
合計	10 名	25 名	58 名	9 名	

### イ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1 日平均利用者数(名)	利用率
19	4	22	393	17.9	94.2%
	5	22	393	17.9	94.2%
	6	24	409	17.2	90.0%
	7	22	351	16.0	84.2%
	8	22	366	16.6	87.3%
	9	22	328	15.6	82.1%
	10	22	363	16.5	86.8%
	11	23	431	18.7	98.4%
	12	21	349	17.5	92.1%
	1	20	318	15.9	83.6%
	2	23	388	16.9	88.9%
	3	23	367	17.3	92.1%
		計	266	4,456	17.0

### ウ 取り組み内容

- ・講座内容：手芸(編み物・ビーズ等・折り紙)、音楽療法、太極拳、視覚障害者講座(点字学習・ピアフラワー・パソコン)、絵手紙、切り絵、麻雀、卓球クラブ、料理クラブを実施。(おかしクラブは、衛生面・人員の問題の為停止中。)
- ・当年度も、スタッフのスキルアップを継続し自主勉強会を 2 ヶ月に 1 回開催。
- ・利用人数のばらつきを解消するため曜日別座席表を取り入れ、新規・既存の利用

者へのアプローチとする。また、半日利用も積極的に取り入れ利用者ニーズに対応した。

- ・講座・講師以外に「活動ボラ」の枠組みでボランティアの活用を積極的に取組んだ。
- ・活動ルームのリニューアルを実施し様々な障がいを持った利用者へのニーズ・安全への配慮をした。

## エ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備考
講師	75	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳
パソコン	619	
活動支援	40	
イベント支援	16	

## オ 今後の課題

- リニューアルにより広がったフロアを活用した講座・活動内容を企画する。
- スタッフ間の情報の並列化・連携性を強化し利用者支援に繋げる。

## 8 児童デイサービス 『わくわくキッズ』

児童デイサービスとして最後の年を迎えた当年度、自立支援法から児童福祉法へと移行する節目となった。4月に掲げた新規利用者の確保・事業のPRなどを軸に進んできたが、振り返ってみると外部への関わりが不十分であり、積極性に欠けた点が当年度の結果となった。しかし、一方で活動内容は充実した一年であった。また、ボランティアも少しずつ定着した形となった。

送迎は3台の車両を使用し、安全な送迎に努めた。緊急時のスタッフの対処については昨年同様の取り組みに加えて、地震等の避難時の確認を行った。

平成24年度からは中高生の受け入れが始まり、利用者が増えることが想定される。そこに向けてフロアの改装を行い、活動スペースの拡張を行った。

### ア 利用児童の学校別の人数：合計34名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	当知・ 正保小	小碓・ 高木小	東築地	名港・ 維新小	療育セ ンター
16名	2名	3名	3名	2名	各1名	各1名	2名	各1名	1名

### イ 利用児童の障害別の人数 (平成24年3月31日現在)

ダウン症	自閉症	知的障害	身体障害	重複障害	合計
2名	6名	10名	2名	14名	34名

重複障害：重度心身含む

## ウ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
10	4	21	243	11.5	115%
	5	20	178	8.9	89%
	6	23	208	9.0	90%
	7	21	164	7.8	78%
	8	22	199	9.0	90%
	9	19	179	9.4	94%
	10	21	193	9.2	92%
	11	21	208	9.9	99%
	12	19	192	10.1	101%
	1	18	170	9.4	94%
	2	22	215	9.8	98%
	3	21	201	9.6	96%
		計	248	2350	9.5

## エ ボランティア・講師活動状況

(ア)曜日別で参加・月の行事での参加・ツアー等の参加が主なもの。

(イ)講師としては、開所当時からキッドピクスの講師。

木曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	女性 1名
金曜日	(講師として) キッドピクス(月2回)	女性 1名
月1回	人形を使って、一緒に歌う	男性 1名
年間で	ツアー・各月の行事参加	男女含む5~10名

## 9 相談支援事業『港区障害者地域生活支援センター』

当年度は相談支援専門員が専従4名(内一人は相談支援機能強化員として)、経理事務が1名の計5名の職員体制で相談支援事業を実施した。

5名の職員がスムーズな業務分担、連携ができるように毎朝のミーティング実施や、年間計画に基づいた事業を行えるように「ガントチャート」を作成し、地域自立支援協議会の運営や地域行事の開催を行うことができた。

相談者数は年間で301人(相談者の内訳は、身体障害者(児)は49%、知的障害者(児)は42%、重症心身障害者(児)は4%、精神障害者(児)は5%であり、障害者は85%、障害児は15%)、新規の相談者は117人であった。相談件数は、昨年より全体で減少しているが、公的機関・事業者・地域における支援センターの周知・役割への理解が進んでいることにより年間100名を超える新規相談を受けている。

今年度の相談内容の傾向としては、特に家族の高齢化に伴い在宅サービスの新規

利用や生活拠点の確保が必要な相談ケースが多く寄せられた。必要最小限のサービスで生活してきたが、往診医等の助言によりセンターへの相談、サービス利用に繋がったケースが増えてきている。

委託事業である障害程度区分の認定調査は、視覚障害者に対する新たなサービス種別である「同行援護」の10月からの導入に伴う新規の認定調査、次年度の更新調査を控え、先行して下半期より調査依頼件数も大幅に増加してきている。

その他の委託事業である自立支援配食サービス、賃貸住宅入居等居住サポート事業については、大幅な増減はみられない。

港区障害者地域自立支援協議会では、定例会を3回（5月、10月、2月）、就労部会、研修部会（地区別の障害理解推進のための啓発の研修会を6月と10月に実施、港区全体を対象に障害理解を深める研修会を12月に開催）、区内の指定相談事業所も含めた個別ケース検討部会も計画通り開催することができた。

各部会では、事例検討会の実施や熱田・中村・中川区との連携による施設見学会などの開催、事業者連絡会においても精神分野に関する学習会を開催し、港区内の施設・居宅事業所の支援力向上に向けた取り組みを行った。

次年度より自立支援法の一部改正に伴い、障害福祉サービス利用者全員を対象とした「サービス等利用計画作成」が必須となる。当センターにおいてもサービス等利用計画書の対象者増加や区内の特定相談事業所に対してのアドバイザーとしての対応を行っていく必要がある。

従来のサービス利用計画対象者ならびに新規相談者に対しても、安心した地域生活を送れるよう引き続き公的機関・医療機関・事業者との連携を深めていくことが必要となる。

#### ア 相談実績件数

月	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
4	84 (1)	179 (1)	5	268 (2)
5	62 (1)	151 (0)	6	219 (1)
6	85 (1)	188 (0)	3	276 (1)
7	105 (1)	162 (1)	4	271 (2)
8	84 (1)	153 (2)	5	242 (3)
9	66 (1)	129 (0)	5	200 (1)
10	73 (1)	184 (0)	5	262 (1)
11	65 (1)	155 (0)	5	225 (1)
12	65 (1)	155 (1)	4	224 (2)
1	66 (1)	175 (0)	2	243 (1)
2	60 (0)	150 (0)	6	216 (0)
3	63 (1)	165 (0)	2	230 (1)
合計	878 (11)	1946 (5)	52	2876 (16)

( )内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲 (ピアフラワー講座含む)

イ 平成 23 年 4 月～24 年 3 月までの月平均相談実績件数

訪問相談 73 件 外来相談 162 件 協議会等の開催 4.3 回

訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議（年 243 件）なども含む。

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

## 1 0 障害者就業・生活支援センター事業

### 『海部障害者就業・生活支援センター』

平成 23 年 10 月より開設し半年が経過した。法人の歴史において名古屋市外への事業所設置は当センターが初めてのこと。「この圏域（海部地域）でなかぼつセンター（就業・生活支援センター）に求められる役割とは？」を模索しながらの活動であった。そのため活動の多くの時間を圏域情報の収集や活動基盤整備に費やす結果となった。

このような状況の中、支援業務においては、A 型事業を希望されるケースが多く A 型事業所への連絡調整業務が多かったが、一般企業就職へ 2 名結びつけることができた。

この圏域の特徴として求人情報や就労支援事業所が少なく、また交通手段が乏しいことが挙げられるが、今後これら課題を克服し圏域内の期待に応え就労に結びつけていくには、研修会や会議の開催・作業開拓・就職および定着等の活動を通して情報収集や関連機関との連携に一層努めていかなければならない。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別)

(件)

センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）	114
電話・Fax・e-mail （本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む）	187
職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）	21
家庭・入所施設への訪問	10
その他（ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等）	76
合 計	408

「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行、失業保険説明会への同席  
ケース会議



イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別) (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
就職に向けた相談・支援	56	42	117	13	228
職場定着に向けた相談・支援	2	38	5	16	61
日常生活、社会生活に関する相談・支援	7	8	20	5	40
就業と生活の両方にわたる相談・支援	5	33	40	1	79
合計	70	121	182	35	408

「その他」内訳

	発達障害	難病	高次脳機能障害	その他	合計
就職に向けた相談・支援	4	0	8	1	13
職場定着に向けた相談・支援	14	0	0	2	16
日常生活、社会生活に関する相談・支援	5	0	0	0	5
就業と生活の両方にわたる相談・支援	0	1	0	0	1
合計	23	1	8	3	35

多機能型事業所 『港ワークキャンパス』

就労継続支援事業A型 『港ワークキャンパス』 ライトハウス名古屋金属工場  
 就労継続支援事業B型 『港ワークキャンパス』 KAN食品開発センター  
 福祉ホーム 『みなと』

1 就労継続支援事業A型 『港ワークキャンパス』

平成23年は日本・世界を大きく揺るがす激動の年となった。震災以降いまだ復興の兆しは見え、経済面ではリーマンショックからの回復傾向が欧州の経済の圧迫によりまた逆戻り。日本政界では相も変わらず賑やかなばかりで希望の光が一向に見えない。

当年度は、大きく2つの視点の取り組みを行った。1つ目は、「3つの支出の低減」

と称し、材料費の低減 不良率の低減 段取り時間の低減を徹底的に実施してきた。2つ目は、減員された職員の役割変更や業務の整理など多能工化を目指し、職員が一丸となり前進できた一年であったといえる。その結果、材料費・人件費の削減にて約5,000万円強の改善実績が出ており完全黒字化の目処が見えてきている。その他、従業員の働く士気を一層高める為に作業能力評価方法を見直すこともでき、当年度の体質改善の成果を受け、次年度も事業の拡張を目指し「更なる福祉サービスの理想像を求めて！」と皆、勢いづいてきているところである。

< A型レトルト加工、糸こんにゃく加工、乾燥蒟蒻加工事業 >

食品加工については受注減と採算性のアンバランスによる厳しい状況が続いていた。体制や管理等、客先の要望に応えられない事項が多く今後の見通しは暗い。場所がある、ノウハウが構築できた、という観点からは事業内容を入れ替えることも視野に入れ、新しい事業の確立等、経営の安定化を図る。

## 2 就労継続支援事業B型『港ワークキャンパス』KAN 食品開発センター

前年度末に起きた東日本大震災以降、防災意識の向上により受注量が大量に増え、それに伴う新規得意先の獲得に加え、休眠中で暫く取引がなかった得意先が一気に目覚めた等、昨年の上対比では約9,000万円アップ(昨年比2.5倍)の結果となった。

下半期では上半期に比べ80%の受注量となってきたものの、国の防災に関する予算化や企業に対する備蓄対策の呼びかけ(帰宅困難者条例)等、備蓄をするという習慣が国民に根付いてきており、次年度も引き続き安定した受注が見込まれそうである。

### ・地域移行推進事業について

- 1) 地域生活希望者に対して、市営住宅申込み等の支援を行ったが、当年度は当選には至らなかった。
- 2) 一般就労希望者に対して就労支援を行った結果、2名が一般就労に至った。

### ・地域貢献について

- 1) 新社屋4階ホールの利用を地域に呼びかけた結果、地域障害者スポーツ(ボッチャ)や当事者団体の会合等に年間45回有効活用することができた。

### ア 賃金支払状況

科目	在籍者 ( )は通所利用者			工賃 (総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続支援A型	62 (50)	3 (3)	65 (53)	175,602	66,835	101,025
就労継続支援B型	8 (7)	12 (12)	20 (19)	71,399	18,248	34,908
計	70 (57)	15 (15)	85 (72)	-	-	-

イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	71	7	8	70	80
女	9	6	0	15	
計	80	13	8	85	

ウ 障害別状況 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
10	37	2	2	28	6	85

エ 年齢構成 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
6	8	18	21	20	12	85	43.9 歳

オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
A 型 60	4	22	1310	59.5	99.2%
	5	21	1277	60.8	101.3%
	6	23	1422	61.8	103.0%
	7	22	1309	59.5	99.2%
	8	21	1324	63.0	105.1%
	9	21	1318	62.8	104.6%
	10	21	1335	63.6	106.0%
	11	21	1306	62.2	103.7%
	12	21	1288	61.3	102.2%
	1	20	1210	60.5	100.8%
	2	21	1243	59.2	98.7%
	3	22	1304	59.3	98.8%
	計		256	15646	61.1

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
B 型 20	4	22	375	17.0	85.2%
	5	21	355	16.9	84.5%
	6	23	392	17.0	85.2%
	7	22	387	17.6	88.0%
	8	21	400	19.0	95.2%
	9	21	359	17.1	85.5%

	10	21	380	18.1	90.5%
	11	21	361	17.2	86.0%
	12	21	347	16.5	82.6%
	1	20	324	16.2	81.0%
	2	21	333	15.9	79.3%
	3	22	344	15.6	78.2%
	計	256	4357	17.0	85.1%

## 緑 風

### 就労継続支援事業 B 型 『緑風』

名古屋市から事業を引き継ぎ 1 年が経過した。旧緑風荘から継続して利用をされている 8 名の方にも満足してご利用をいただいている。利用者数は、地下鉄本山駅までの送迎や、短時間利用を希望される方の受入れ等を進めた結果、年度末には 16 名となった。現在実習中で 5 月までに利用を開始される方を含めると 20 名となる。今後さらに広報活動に力を入れ、24 年度中の定員増を目指す。

就労面では、旧緑風荘から取り組んでいる「くまで組立て」「チラシ、DM 封入」において、取引先から高い評価をいただき、ほぼ 5 割増しの取扱量となった。

生活面では、新旧利用者の交流を図るためレクリエーションを活発に行うとともに、きめ細かな面談を通して利用者の気持ちの変化を捉え、効果的な支援につなげることができた。

地域活動としては見学会を開催して施設の周知を図ることができた。今後は継続的な取り組みを考えたい。

名古屋市からの移管にともなった大規模修繕工事は、事業を運営しながらの工事であり、配慮を要す点が多々あったが、年度内に無事に完了した。

当年度は利用者間職員間で連帯感が生まれ、今後の緑風の発展につながる基礎ができた年となった。

#### ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者			工賃（年間総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
軽作業科	13	3	16	27,592	2,308	13,401

#### イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	7	6	0	13	20
女	1	2	0	3	
計	8	8	0	16	

ウ 障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	10	0	0	4	1	16

エ 年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	4	2	7	3	0	16	39.6 歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	62 名
レク介助	7 名

## 戸田川グリーンヴィレッジ

障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

施設入所支援・生活介護事業・短期入所事業

4 月に施設入所支援と生活介護 40 名定員で新規開設し、段階的に利用者の受け入れを行い、途中 3 名の退所(死亡 2 名・家庭復帰 1 名)があり、3 月には入所は 97.9%、生活介護は 108.8%の稼働率で推移した。

4 月末には職員総数 31 名(内、生活支援員 19 名・看護師 2 名)だったが、3 月末には 50 名(内、生活支援員 30 名・看護師 3 名・作業療法士 1 名)となり、安定的な運営ができるようになってきた。年間を通して介護職の採用と育成は課題で、施設内外での研修実施とフォローアップの体制整備を進めた。

6 月より短期入所（ショートステイ）8 名の受け入れを開始し、3 月には 66.1%(1 日平均 5.3 名)の稼働率となった。どの事業も順調に推移している。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	-	25	1 (死亡)	24	40
女	-	18	2 (死亡 1 家庭復帰 1)	16	
計	-	43	3	40	

イ 障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

脳性まひ	脳障害後遺症	頸髄損傷	二分脊椎	化膿性脊髄炎	視覚障害	リウマチ
36	5	3	2	2	4	1

筋ジストロフィ -	ハンチントン病	パ°-キンソン症 候群	多発性硬 化症	脊髄小脳 変性症	-	合計
2	1	4	1	1	-	40(22)

( )内は重複障害再掲

ウ 年齢構成(平成24年3月31日現在)

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
男	0	3	10	8	3	24	49.1歳
女	2	1	3	8	2	16	50.1歳
計	2	4	13	16	5	40	49.5歳

エ 障害程度区分別状況(平成24年3月31日現在)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	2	8	29	40

オ 短期入所及び通所利用状況(平成24年3月31日現在)

		短期入所 利用人数	短期入所 利用延べ 日数	短期入所 利用相談 件数	短期入所利用新規登 録者数		通所利用 人数	通所利用 延べ日数
					市内	市外		
4月		-	-	18	20名	0名		
5月		-	-	30	20名	5名		
6月		12名	34日	21	12名	1名		
7月		19名	47日	12	12名	0名	1名	2日
8月	男	9名	97日	12	4名	1名	1名	5日
	女	10名			5名	0名	1名	
9月	男	11名	82日	7	0名	1名	2名	
	女	14名			1名	2名	1名	
10月	男	12名	78日	9	2名	2名	2名	4日
	女	9名			3名	0名		
11月	男	12名	84日	17	7名	1名	1名	3日
	女	19名			3名	0名		
12月	男	16名	103日	7	3名	1名	1名	1日
	女	16名			3名	0名		
1月	男	18名	137日	7	3名	1名	1名	3日
	女	17名			2名	0名		
2月	男	13名	153日	12	3名	2名	4名	6日
	女	15名			5名	0名		
3月	男	18名	163日	9	7名	0名	6名	7日
	女	19名			1名	0名		
合計		259名	978日	161	116名	17名	21名	31日

## ( 1 ) 生活支援

個別支援計画に関しては6月にニーズ把握の勉強会、7月からモニタリング会議を開始し、その後、月2回ずつ定例開催(年間18回)でき、12月には全利用者の週間ケアプランを作成でき、個別支援に活用した。

職員会議は4月から毎月開催し、職員全体への連絡・報告と各課題の協議等を実施した。出席できる職員が限られているため、議事録を欠席者に配布あるいは回覧するようにした。

生活支援員の班体制については当初男女混合の3班体制だったが、6月より介助技術向上を目指して利用者・職員とも男女別4班体制とし、日中活動等の役割分担表を示し、担当を中心に準備から実施まで計画的に行える体制とした。7月には日勤・夜勤の業務の見直しと1日の業務の流れを可視化し、8月には夜勤を2名から3名体制に変更した。8月～2ヵ月に1回班会議を開始し利用者支援の検討を実施、11月より班長会議を開始し、部門内の支援方針の統一を図った。12月からケース記録等のデータ化を基本とし、部門間の情報共有を徹底した。1月からショートステイの利用増に伴い、男性利用者の入浴介助を午前中にも実施し始めた。1～3月に満足度調査を実施、結果を掲示し、改善できることは次年度の事業計画に生かしていく。

## ( 2 ) 日中活動

外出困難者のために「御用聞き(買い物代行)」サービスを定期的に行い、また、リフト車を用意し、外出支援(ドライブ、映画鑑賞、買い物等)を開始して延べ154名が参加した。活動の幅を広げるため、新たに車いすが搭乗可能な軽車両を導入した。外部とのゴロバレーの練習試合を行い、愛知県の大会にも参加した。

音楽療法士による個別療育、作業療法士による個別リハビリを実施した。

12月は忘年会シーズンということもあり、喫茶コーナーにて居酒屋「空」を開店するなど、季節を感じられる行事開催の他、1月に成人祝い3月に還暦祝いを開催した。

## ( 3 ) 事故報告・ヒヤリハット

職員のスキルアップを目指して接遇・記録・介護・看護・安全運転等研修や障害理解の自主勉強会を開催したが、事故報告の内容は転倒などの単純な事故が多く、9月には本人の不注意による居室での骨折事故が発生した。11月には安全対策と感染対策委員会を立ち上げ、それぞれ月1回程度開催し、予防策や対応策を検討した。年間ヒヤリハットが49件、事故報告が59件発生した。事故原因の分析と危険箇所の改善、介助方法の再教育と各利用者に適した介助方法の検討・実施、介助手順書の作成が課題である。

## ( 4 ) 給食部門

パート職員の出入りはあったものの様々な食形態や食べやすさ、利用者ニーズを追及し、嗜好調査の結果も取り入れながら個別対応や適温給食の提供に努めた。家

族交流会や夏祭り、バーベキューでは行事食を提供した。また、ランチバイキングを10月11月に取り入れ、好評を得ている。12月2月には寄せ鍋とカニ鍋に副菜バイキングメニューとし、多くの地域ボランティアの協力を得てより豊かな食卓の演出に努めた。

#### (5) 看護部門

嘱託医の週1回の往診に加え、5月から整形外科の往診や通院と理学療法士の訪問診療を開始した。7月から希望者への訪問マッサージ診療も開始した。8月に中川区歯科医師会による歯科検診実施、10月からは訪問歯科診療を月2回程度開始した。11月には利用者・職員を対象としてインフルエンザの予防接種を実施した。排尿障害の利用者の体調不良が目立ち、専門の泌尿器科やリハビリ科への通院介助も取り入れた。その他専門病院への通院介助等も必要に応じて支援している。

#### \*見学者受け入れ状況

月日	時間	見学者・団体名	人数
5/27	10:00～11:00	なごみ苑	6名
5/30	14:00～15:00	西福田民生委員児童委員協議会	8名
6/3	11:00～12:30	なごみ苑苑長 三橋建築設計事務所	3名
6/3	15:00～	名古屋養護学校	2名
6/20	13:30～15:00	みなとガイドネット 研修	16名
6/20	18:30～	みなとガイドネット 研修	5名
6/23	14:00～15:00	ゆたか作業所家族会	9名
6/26	14:30～15:30	名古屋経営短大 健康福祉学科	8名
6/28	10:00～11:15	名古屋養護学校 PTA 進路指導部	12名
7/6	16:00～17:40	愛厚弥富の里 2名 あいさんハウス 1名 海部福祉相談センター 1名	4名
7/25	10:30～12:00	むつみグリーンハウス	6名
7/27	10:15～11:30	名古屋養護学校	20名
8/22	13:00～14:40	ひかりのさとのぞみの家	6名
8/24	13:00～16:00	四区合同見学会	12名
8/25	9:45～11:45	杜の家家族会	10名
8/30	13:30～14:40	ゆたか作業所	8名
9/6	10:00～12:00	虹の里八開	20名
10/5	10:00～11:30	小本育成苑	5名
10/20	13:30～14:00	小本育成苑 苑長	1名
10/24	10:00～	港養護学校 PTA 下見	5名
10/25	10:30～12:30	むつみ福社会親の会	4名
11/2	10:30～12:00	むつみ福社会親の会	11名



11/4	10:10 ~ 11:10	港養護学校 PTA	19名
11/7	14:30 ~ 16:00	青い鳥医療福祉センター	7名
11/24	10:30 ~ 12:00	ゼル福祉会 ウィル親の会	10名
12/19	10:15 ~ 11:15	中川区西部いきいき支援センター	3名
1/19	10:00 ~ 12:30	歯科医療センター Cw	3名
1/25	11:00 ~ 12:45	居宅介護かんがるーぽけっと	3名
1/31	10:30 ~ 12:00	TOTO 社員	5名
2/21	10:00 ~ 10:45	中部学院大学 通信教育部 学生	1名
			合計 259名

\* ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数		延べ人数	
		個人人数	団体名・人数		
切り絵・はり絵	15回	1名	1名	15名	
パソコン講座	64回	2名	2名	64名	
組みひも	10回	7名	7名	23名	
除草・剪定	5回	3名	3名	9名	
バーベキュー	1回	2名	2名	2名	
フラダンス	1回	6名	Sweet pikake hura 6名	6名	
歌謡舞踊	1回	12名	山吹流みひろ会 12名	12名	
サマーボランティア	4回	4名	4名	4名15日	
太鼓(夏祭り)	1回	26名	16名	尾張新次郎太鼓保存会 10名	26名
生活支援	26回	1名	1名		26名
点訳	1回	1名	1名		1名
昼食バイキング	2回	2名	2名		4名
音楽等	8回	1名	1名		8名
鍋物会	2回	20名	4名	江松ひまわり会 7名	32名
				みつば会 9名	
舞踊	1回	10名		チーム御田咲楽 10名	10名
舞踊・太鼓	1回	18名		かすりの会 鬼剣舞 18名	18名
還暦祝い	1回	1名	1名		1名
合計	144回	117名	45名	7団体 72名	261名

# 名古屋盲人情報文化センター

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

創設 51 年目となり新しい気持ちでスタートした 1 年であった。若干の職員減の中であったが、職員間の協力体制を密にするとともに、業務内容の精選をはかり以下の成果を収めることができた。

## 1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H21 年度	24	8	156	130	29	315
H22 年度	23	8	163	122	40	325
H23 年度	22	7	146	126	37	309

	ご寄付			
	個人	団体	～ 10 万円	10 万円～
H21 年度	57	4	59	2
H22 年度	101	11	107	5
H23 年度	49	4	51	2

## 2. 図書館事業部

### (1) 貸出システムの構築

平成 20 年度に完成した図書製作管理システムに連動する貸出システムの構築に取り組み、平成 24 年 4 月より、本格運用を開始する。

上半期は実情にあったシステム構築をするため、部内での意見交換、システム設計者との打ち合わせの機会を多く持ち、システムの利点を充分発揮するための物品の検証も行い実情に合ったシステムの基礎構想に意を用いた。

下半期は未登録図書のデータ化、システムの仕様にあった図書の整備を多くのボランティアの協力を得て本格的に開始した。12 月末からは 3 ヶ月間、図書館業務を休業し、書庫等、大幅な整理整頓に取り組み 4 月からの本格運用に備えた。

### (2) 図書館サービス

「この本が読みたい」という意欲を喚起できるよう機関誌「みちしお」の紙面を工夫し、窓口でのレファレンスに意を用いた。

平成 22 年度、デイジーデータもサピエからダウンロードできるようになったことを受け、それ以前に制作したサピエにアップしていない蔵書についても 9 月より人気の高いものから順次集中してアップロードした。

12 月末からの図書館業務休業で利用者が被る不利益を少しでも減らすため、愛知・岐阜・三重の視覚障害者情報提供施設に協力を要請し、機関誌、ホームページ、社内掲示で告知を行った。

休業期間中もサピエ会員がデータを利用できるよう、点字・録音（音声デジター）の新刊書のデータアップを行った。

- \* デジターとは、デジタル録音図書を実用化するための国際標準で、音声に目次情報なども付加されているので活字の本と同じように、章ごとに頭だしをしたり、指定のページへ飛ばすことができる。また音声圧縮により長時間の録音が可能。
- \* サピエとは、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営する、視覚障害者あるいは視覚の表）の認識に障害のある方のために、点字のデータ、音声のデータを提供する情報総合ネットワーク。

### （ 3 ） ボランティア育成

点訳では 6 月から、音訳では 9 月からそれぞれ新規のボランティア養成講習会を開講し、終了した受講者は 24 年度から活動を開始する。

活動中のボランティアに対してもグループ、制作チームを編成し、活動が円滑にできるよう意を用いた。点訳・音訳の技術を向上するための研修も適宜行った。

### （ 1 ） 蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		C D 図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H21 年度	9,280	32,004	8,106	46,737	5,240	5,500
H22 年度	9,812	34,113	8,465	48,916	5,725	5,692
H23 年度	10,079	35,090	8,570	49,323	5,939	6,171

### （ 2 ） 新規製作図書

#### 蔵書

	点字図書		C D 図書
	タイトル数	冊数（内リクエスト）	タイトル数（内リクエスト）
H21 年度	139	496	209
H22 年度	234（26）	866	143（36）
H23 年度	251（6）	917	195（35）

雑誌

	点字		録音（テープ）		録音（CD）	
	月刊	隔月	月刊	隔月	月刊	隔月
H21年度	2タイトル	-	0タイトル	12タイトル	84タイトル	12タイトル
H22年度	2タイトル	-	0タイトル	12タイトル	84タイトル	12タイトル
H23年度	2タイトル	-	-	-	84タイトル	18タイトル

プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H21年度	144	254	48
H22年度	104	139	12
H23年度	85	101	10

サピエデータアップ状況

	点字データ		デジータデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H21年度	380	1,469	-	-
H22年度	353	1,434	498	4,289時間 14分
H23年度	389	1,575	1,033	8,669時間 40分

(3) ボランティア養成

点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ講習	英語点訳
H21年度	2講座 25回 延べ 475名	1講座 12回 延べ 192名	-
H22年度	-	1講座 13回 延べ 208名	-
H23年度	1講座 15回 延べ 209名	1講座 22回 延べ 308名	1講座 23回 延べ 161名

音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者 養成講習 (フォローアップ)	プリントエディター 養成講習
H21年度	22回 262名	10回 105名	2回 60名	-
H22年度	22回 198名	14回 125名	-	2回 20名
H23年度	21回 153名	8回 50名	1回 11名	-

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク 操作講習
H21年度	8回 335名	40回 708名	4回 100名
H22年度	7回 301名	39回 770名	5回 28名
H23年度	7回 313名	54回 816名	11回 65名

\*実人数

(4) 貸出  
登録者

	個人(内・サピエ)	団体
H21年度	2,382 (259)	551
H22年度	2,464 (335)	556
H23年度	2,482 (504)	551

利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H21年度	199	1,804	346	12,986	700	22,386
H22年度	170	4,022	252	8,325	648	23,679
H23年度	175	4,143	193	4,507	650	23,699

資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H21年度	1,896	4,841	11,011	39,145	27,120	29,668
H22年度	4,317	7,228	9,143	30,279	31,654	31,709
H23年度	4,449	6,745	4,901	17,084	28,324	28,505

オンラインリクエスト(直送はH24年度開始予定)

	リクエスト 送信数 (施設)	リクエスト 送信数 (個人借受)	リクエスト 送信数 (個人直送)	直送 巻数	リクエスト ト送信数	リクエスト 受信数
H21年度	-	-	-	-	-	-
H22年度	5,325	3,186	-	-	8,514	5,097
H23年度	4,402	2,629	-	-	7,031	4,381

コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H21年度	-	-	-	-
H22年度	11,296	48,186	205	23,750
H23年度	12,859	52,752	208	25,260

コンテンツ利用状況集計(ダイジーデータ)

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用者	再生 延べ利用者	ダウン タイトル数	ダウン 時間	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H21年度	-	-	-	-	-	-	-	-
H22年度	1,238	1,484 時間 53分	30	3,108	7,921	71,440 時間 40分	209	17,883
H23年度	2,781	2,878 時間 6分	33	6,597	14,140	117,518 時間 52分	265	45,207

ダイジーオンライン(H23年9月よりサービス開始)

	A会員		B会員		合計	
	実利用者 数	登録タイ トル数	実利用者 数	登録タイ トル数	実利用者 数	登録タイ トル数
H21年度	-	-	-	-	-	-
H22年度	-	-	-	-	-	-
H23年度	3	11	0	0	3	11

(5) 情報提供

	ホームペ-ジ 訪問者数	テレホン サービス	電話比 (中日春秋)	新聞 点訳	バリアフリ- 映画会	メル マガジン
H21年度	43,699件	2,470件	1,578件	25名	6回244名	476件
H22年度	14,651件	2,217件	1,210件	27名	6回212名	358件
H23年度	3,039件	2,064件	終了	29名	6回257名	373件

	点字出力サビ`ス	対面読書サビ`ス	代筆・墨訳サビ`ス
H21年度	29,468枚	15件	34件
H22年度	4,750枚	12件	21件
H23年度	32,000枚	16件	23件

	利用者向けプレストーク 個人講習	利用者向けプレストーク 操作体験会
H21年度	19回 14名	8回 83名
H22年度	19回 18名	5回 62名
H23年度	31回 19名	2回 19名

### 3. 点字出版事業部

発行物において、児童書・名古屋市史・地下街マップ・らしんばん、の4つのワーキンググループを作り、発行に至るまでそれぞれグループで綿密な調整をはかり作業を進めた。

#### (1) 点字出版物製作

##### オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	グリーンイグ カード	年賀状 点図シール	一筆箋	エコ バッグ
H21年度	1,346冊	83タイトル	145タイトル	136枚	1,810枚	82冊	—
H22年度	1,267冊	14タイトル	134タイトル	165枚	1,416枚	176冊	236枚
H23年度	1,190冊	25タイトル	885タイトル	178枚	1,695枚	94冊	72枚

##### 受注製作物（定期刊行物・点字教科書）

	名古屋市（広報なご や・市会だより）	他市町村 （広報とよた）	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H21年度	印刷 256,545枚	印刷 18,798枚	印刷 106,272枚	生徒4名 21科目
H22年度	印刷 253,944枚	印刷 13,364枚	印刷 88,273枚	生徒5名 12科目
H23年度	印刷 253,382枚	印刷 14,958枚	印刷 94,945枚	生徒1名 1科目

##### その他受注製作物

	名古屋市 （行政資料 等）	施設・団体 （資料等）	一般企業 （資料・メモ 等）	選挙情報（名 簿・投票用 紙・公報）	公共料金明細 （電気・ガ ス・水道）	点字 名刺
H21年度	10件 74,496枚	32件 35,929枚	19件 138,887枚	24件 210,621枚	印刷 18,344枚	133名 19,521枚
H22年度	10件 73,053枚	27件 48,597枚	15件 185,550枚	38件 315,628枚	印刷 7,342枚	130名 19,506枚
H23年度	16件 92,699枚	37件 111,109枚	22件 49,806枚	59件 21,609枚	印刷 7,839枚	141名 19,301枚

(2) 点字技術支援 (点字サイン・UV加工等)

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内触 図案内板	鉄道駅 手すり案内板	鉄道駅 運賃表	タクシー 車内シール	UV加工
H21年度	3,517枚	9駅 18枚	7駅 82本	3駅 3冊	1,415枚	44点
H22年度	3,000枚	25駅 50枚	29駅 465本	100駅 162冊	1,593枚	57点
H23年度	2,620枚	19駅 30枚	27駅 306本	3駅 4冊	71枚	56点

4. サービス事業部

視覚障害者の生活面を豊かにする為、MAJ講座をはじめ、料理教室、ITサポート、便利グッズの紹介などを行った。また、視覚障害に関する啓蒙・啓発活動として、福祉実践教室等への講師派遣や体験実習の受入を積極的に行った。

(1) 社会参加・活動支援

相談支援

	相談支援		合計
	継続支援(件)	新規支援(件)	
H21年度	40	86	126件(実人数188人)
H22年度	30	93	123件(実人数184人)
H23年度	66	112	178件(実人数109人)

	生活	ミ ニ マ ル 生 活	就 労	学 業	ピ ア カ	家 族	ロ ビ ン ジ ョ ン	移 動	そ の 他	計 (件)
H21年度	44	29	45	8	46	6	5	6	16	205
H22年度	45	30	42	8	58	5	15	14	26	243
H23年度	53	25	22	1	74	9	3	7	16	210

中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室			
	人数	うち 新規	回数	自主受講	人数	延べ人数	講座数	回数
H21年度	22	6	44	11名	15	31	—	5
H22年度	21	5	43	16名	16	80	12	12
H23年度	20	8	43	15名	15	87	12	12

(2) ガイドヘルパー養成講習会

	ガイドヘルパー養成			ガイドボランティア指導		
	講座数	延回数	受講者数	講座数	延回数	受講者数
H21年度	7	21	139	6	6	56
H22年度	2	8	30	4	5	42
H23年度	休止	休止	休止	休止	休止	休止



( 3 ) I T 訓練支援

	相談 ( 延人数 )	リモートサポート	個人指導	集団指導	IT バス
H21 年度	423	0	171	25	25
H22 年度	547	3	156	5	10
H23 年度	729	2	191	6	サービス終了

( 4 ) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高学校	その他施設	計
H21 年度	16	22	38 件	3 件	9 件	12 件 71 名
H22 年度	12	26	38 件	5 件	14 件	19 件 211 名
H23 年度	11	17	28 件	10 件	6 件	16 件 165 名

( 5 ) M A J ( みんなあつまれ情文へ ) 講習

	回数	延べ人数
H21 年度	35 回	228 名
H22 年度	37 回	239 名
H23 年度	34 回	166 名

( 6 ) 用具サービス

	読書支援機器			
	ブックトーク(録音・再生)PTR2	ブックトーク(再生専用)PTN 1 /PTN2	拡大読書器	小型ブックトーク PTP1・リンクブック
H21 年度	59	50	33	39
H22 年度	88	45	74	45
H23 年度	57	81	52	65

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H21 年度	380	PC-Talker(38)	ネットリーダー-(26)	MyMail (23)
H22 年度	418	PC-Talker(36)	ネットリーダー-(30)	MyMail (24)
H23 年度	459	PC-Talker(21)	ネットリーダー-(19)	MyMail (18)

## 5．利用者および地域住民との交流事業

7月18日は、「みちしおまつり」を開催し約100名の利用者が集まり、バザー、楽器体験、模擬店などが行われた。

10月23日に行われた港北公園での港区ふれあい広場へ出展し、点字・音訳体験コーナーを設け地域住民との交流を深めた。

11月13日に開催された第1回「ユニバーサル運動会」に共催団体としてかわり、130名の参加者がスポーツを楽しんだ。

## 6．関係団体の連携事業

日本盲人社会福祉施設協議会、全国視覚障害者情報提供施設協会、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会の会員として、大会、研修会などへ職員を派遣すると共に、委員などの役職も勤めた。

また、名古屋盲学校、岡崎盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、名古屋市視覚障害者協会、東海音訳学習会など愛知県内の関連団体と密接に連携して活動を行った。

## 瀬古マザー園

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
”	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

当年度は、収入面での大幅な伸びが見込めず、経営的には厳しい環境下ではあったが、ナースコールの更新や小規模修繕の実施など、さらに厳しくなる次年度以降に備えた安心、安全面での対策の充実を図った。

また、当年度前半は各種研修への積極的な取り組みが功を奏し、利用者への介護技術や接遇技術は着実に向上したが、後半に入り不慮の事故による長期休養者や離職者の続出により、大幅な人員補強を余儀なくされるに至った。依然として職員定着への課題は多いが、今後もマンパワーの充実に努め、安定的な人材確保を目指していく。

施設及び環境整備の面では、上述のナースコールの更新の他、玄関前庭、時計塔下庭の植替え工事及び東側通路の植栽工事を実施した。次年度も食堂前庭の植栽工事などを計画的に実施していきたい。

### 1 特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園

利用者の高齢化や心身機能の重度化が常態化し、医療機関への通院・入院の長期化が常態化している中、当年度の稼働率は 95.8%と前年度比 +0.6%となったものの収入はほぼ横ばいであった。平成 24 年度介護報酬改定に伴い、今後、収入ダウンが予想されるため、次年度は新たなサービス加算取得及び稼働率向上への取り組みが急務となる。

当年度は、大目標として「利用者に寄り添ったケアの実践」を掲げ、利用者の安心・安全を守るための職員意識の徹底と生活環境づくり、介護・医療的サービスの充実及び看護・介護の連携強化を重点課題とし、具体的には以下の取り組みを行なった。

定期的な安全点検の実施

看護職員配置の見直し

医療行為に関する研修の実施

グループ活動を中心とした業務改善の実施

施設利用状況

定員 (人)	月	延べ在籍者数(人)	1日平均在籍者数(人)	ベッド稼働率(%)
60	4月	1764	58.0	98.0
	5月	1793	57.8	96.3
	6月	1751	58.3	97.2
	7月	1749	56.4	94.0
	8月	1785	57.5	95.9
	9月	1714	57.1	95.2
	10月	1768	57.0	95.0
	11月	1676	55.8	93.1
	12月	1780	57.4	95.6
	1月	1767	57.0	95.0
	2月	1714	59.1	98.5
	3月	1780	57.4	95.6
	年間	21041	57.4	95.8

2 盲養護老人ホーム 瀬古第二マザー園

当年度は前年度に比べ、減少したものの6名と定員に対し1割超の入退所があった。また介護保険サービス利用者数も7名から13名へと大幅に増加、外部サービスの活用も利用者の日常生活に欠かせないものとなりつつある。ここ数年来、入所者の状況や求められる支援の在り方も大きく変化しており、混合処遇、専門性の担保、また待機者の確保など課題は様々である。

当年度は居室環境整備、ナースコール設備更新、関係機関への広報活動などを行ってきたが、引き続き、多様なニーズに応えられるようサービス改善や安心して過ごせる環境づくりに努めていく。また利用者及び利用希望者が相談しやすい仕組みづくり、関係機関への情報提供や広報活動を進め、利用者確保と安定した運営を図っていく。

施設利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日 在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	50	50	—
入 所	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	1	6
退 所	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	6

### 3 高齢者デイサービス

#### (1) 瀬古マザー園デイサービスセンター

当年度年間延べ利用者 6,181 名（前年度 6,126 名）、1 日平均利用者数 20.1 名（前年度 19.8 名）となったものの、天候の影響で稼働日の 2 日減もあり、介護保険収入は対前年比 1%減であった。

当年度目標とした「地域に密着した施設」については、地域民生委員等の会合に参加し「地域のデイサービス」としての PR 活動や、ケアマネを対象とした食事会を開催するなど実施した。また、定期的な居宅介護事業所を訪問なども行なってきた。ただ、それらが即利用者増に結びついていないとはいえず、更なる働きかけが必要と思われる。また、実施した利用者満足度アンケートでは、当デイサービスに対しては 80%以上の「満足」との回答を頂いたが、今後もレクリエーション内容を改革するなどして、利用者に更なる喜びを提供できるデイサービスを目指し取り組んでいく。

今後も同様な努力を重ねるとともに、利用者に喜んで頂ける環境づくりを整えていく。

#### 施設利用状況

定員	月	実施日	延べ利用者数	1 日平均利用者数	利用率
30	4	26	550	21.1	70.5%
	5	26	545	20.9	69.8%
	6	26	555	21.3	71.1%
	7	26	555	21.3	71.1%
	8	27	547	20.2	67.5%
	9	24	454	18.9	63.1%
	10	26	527	20.3	67.6%
	11	26	494	19.0	63.3%
	12	24	469	19.5	65.1%
	1	24	462	19.2	64.1%
	2	25	480	19.2	64.0%
	3	27	543	20.0	67.0%
		計	307	6181	20.1

#### (2) 矢田マザー園デイサービスセンター

当年度年間延べ利用者は 6,182 名（前年度 6,348 名）、1 日平均利用者数 20.1 名（前年度 20.6 名）で前年比 97.3%であった。

当年度は余暇活動の幅や選択、業務マニュアルの見直し、気付きの強化など、サービス内容の充実に取り組んだ。また、設備面においては適宜修繕を行なうとともに、車両や浴室の整備なども行い、利用者サービスに影響がでないよう対応

を行なった。

平成 24 年度介護保険制度改正について情報収集を進めてきた。当年度終盤にはその内容が示されたが、介護報酬や時間区分の見直しなど事業運営はより一層厳しい状況となってくる。今後はサービス提供時間や業務改善、職員体制などの見直しを進め、利用者サービスの向上を図るとともに、利用者確保に向け計画的に進め、安定した運営に努める。

#### 施設利用状況

定員	月	実施日	延べ利用者数	1日平均利用者数	利用率
30	4	26	478	18.3	61.2%
	5	26	485	18.6	62.1%
	6	26	533	20.5	68.3%
	7	26	536	20.6	68.7%
	8	27	569	21.0	70.2%
	9	24	514	21.4	71.3%
	10	26	525	20.1	67.3%
	11	26	516	19.8	66.1%
	12	24	493	20.5	68.4%
	1	24	474	19.7	65.8%
	2	25	510	20.4	68.0%
	3	27	549	20.3	67.7%
	計	307	6182	20.2	67.3%

#### 4 瀬古マザー園短期入所生活介護事業所

当年度の稼働率は 78.6%と前年度比 + 5.3%となった。稼働率が 80%台となった月が 5 ヶ月あり、前年度に比べ稼働率はプラスに転じ、収入は対前年度比 + 8%となった。

当年度は、ショート用居室にプライバシースペースの確保を目的とした家具を設置し、効率的な運営と利用しやすい環境整備を行った。また、居宅支援事業者と情報交換を行い利用者のニーズ把握に努め、サービス調整を行なった。

#### 施設利用状況

定員	月	延べ利用者数	1日平均利用者数	ベッド稼働率	利用人員
4	4	91	3.0	75.8%	12
	5	107	3.4	86.2%	13
	6	102	3.4	85.0%	14
	7	92	2.9	74.1%	12
	8	89	2.8	71.7%	13

	9	102	3.4	85.0%	14
	10	99	3.1	82.5%	14
	11	102	3.4	85.0%	14
	12	99	3.1	79.8%	13
	1	91	2.9	73.3%	11
	2	85	2.9	73.2%	11
	3	93	3.0	75.0%	12
	計	1152	3.1	78.6%	153

## 5 瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所

当年度ケアプラン作成件数は622件で、前年度作成件数763件と比較し-141件となり大幅に減少した。その為、収入は対前年度比-28%と大幅なダウンとなった。要因として、年度途中の職員配置変更が大きく影響した。

当年度は、いきいき支援センター・民生委員など関係機関と積極的な情報交換を行い、地域ニーズの収集及び利用者確保に努めた。

### 施設利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケアプラン作成件数	支援	10	10	10	10	11	10	10	8	8	8	8	8	111
	介護	47	48	47	43	48	41	44	39	41	39	37	37	511
計		57	58	57	53	59	51	54	47	49	47	45	45	622

## 6 瀬古平成会館

地域でのコミュニティセンターとしての役割を担い、年々施設利用者が増加、引き続き会館の維持管理・運営について利用基準の明確な運用に心がけ、公益事業としての役割を果たしていく。昨年の台風15号時には、臨時避難所としての役割を果たすことができ、今後もより一層の地域の安心、安全拠点を目指し、地域住民のマザー園来園の機会を増やせるよう存在価値を高めていく。

また、当年度できなかった老朽化し効きが悪くなった空調設備の更新を次年度実施し、利用者の方に快適に平成会館を利用していただくよう計画をしていく。

\* 瀬古マザー園ボランティア受入れ状況

団体関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人 数
グループあすなる	5～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	約220名
瀬古小 PTA ママさんコーラス	13名	12月	ハンドベル・合唱の披露	13名
愛知県理容生活衛生同 業組合（守山支部）	5～6名	毎月第一水 曜	理髪奉仕（有償）	65名
元杵子ども会	20	9月中旬	歌の披露	20名
点字ボランティア	約3名	毎月1～2回	毎月の行事予定・献立の 点訳	36名
守山区自治会等	14名	11月	地域交流会手伝い	14名
オカリナーモ	12名	4月	オカリナ演奏	10名
岐阜大学落語同好会	2名	11月、12月、 2月	落語演奏・大正琴演奏	6名
東邦ガスオーケストラ 演奏	16名	7月	慰問演奏	16名

学校関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人 数
守山西中学校	131名	8月末旬	入所者・利用者とのふれあ い・ジャズアンサンブル披露	129名
春日井高等養護学校		7、3月	茶道披露、交流会	38名
日比津中学校	4名	10月	福祉学習	5名
守西保育園	30名	6、11月	歌の披露、利用者とのふれ あい	44名
聖霊、瀬戸北、愛工名 電高校	1～4名	8月	夏期高校生ボラ活動	7名



## 個人ボランティア

項目	活動日	活動内容	年間延活動人数
書道指導	月 1 回	書道クラブ（瀬古入所者）	20 名
書道指導	月 1 回	書道教室（矢田利用者）	12 名
ダンス指導	9 月～3 月	ダンスクラブ(1 回当たり約 4～5 名)	35 名
カラオケ指導	月 1 回	カラオケクラブ	10 名
俳句指導	月 1 回	俳句クラブ	12 名
音楽指導	月 2 回	音楽クラブ	24 名
美容	特:月 1、養護:月 3	特養・養護美容奉仕（有償）	特 12、養 36 名
陶芸指導	月 1 回	陶芸クラブ	18 名
時計店	月 1 回	入所者時計修理	12 名
音楽療法	月 2 回	特養入所者・デイ利用者へ音楽療法（有償）	34 名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	95 名
裁縫	月 1 回	養護入所者の繕い物作業	19 名
養護	随時	養護入所者外出付添い、話し相手等	33 名
デイサービス	随時	マッサージ、入所者対応	34 名
特養	随時	特養入所者の繕い物作業 等	12 名
盆踊り指導	4 月～8 月	ダンスクラブ(1 回当たり約 4～5 名)	30 名